

ikeijuen

敬樹園だよりvol.60

西円山ヒルズ・STORY vol.16 介護保険制度改定で変わる未来

- 敬樹園 施設長ご挨拶●
- クラスター終息後の感染対策について●
- 行事 album(よしもとオンラインレクライア /
園庭散歩 / ベランダの会)●
- Photo Snap(敬老祝賀会)●
- topics(介護の現場から / 敬樹園の生活のしぐさ /
見守りシステム「aams(アームス)」)●

施設長挨拶

この度は、当施設における新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生により多くの皆様にご心労をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

昨年度から、法人、施設のルールに基づき「持ち込まない」対策として、ご家族様との面会制限や職員へ様々な自粛のお願い等をしながら感染対策を実施してきました。

しかし、一旦入り込んだウイルスはわずかな期間で多くのご利用者様、職員へ感染し、合計で84名もの感染者を発生させる結果となってしまいました。

クラスター対応中には、施設内の情報を円滑にお伝えできず、多くの皆様に更なるご不安、ご心配をおかけしていた事に重ねてお詫び申し上げます。

今回のクラスターが終息し、4カ月が経過いたしました現在は、退院され多くのご利用者様がお戻りになられ、僅かばかりではありますが以前の施設の風景へと戻りつつあります。市内の感染状況を見ながらクラブ活動や小規模での行事も徐々に開始しています。

クラスター終息後、8月下旬に「ベランダでスイカ」行事を少人数で開催しました。これは、札幌中心部を一望できる3階のベランダでスイカやゼリー、ビール等で夏を感じ楽しんでもらおうと企画したものです。参加された皆様の笑顔は、職員皆が改めて「この仕事をしていて良かった」と感じた瞬間でした。

今回のクラスター発生により、多くの辛く悲しい場面を経験しながら、ウイルスを「正しく理解」「正しく恐れる」という事を学びました。

これから先も正しく感染対策を行いながらも、ご利用者様とスタッフの笑顔あふれる施設を目指して参ります。

施設長 菊地 一朗

クラスター終息後の感染対策について

4月末に当施設における新型コロナウイルス感染症により発生したクラスターが5月末の終息宣言を受け、3階居室棟は業者による除菌清掃、タンス内の衣類、私物等の洗浄除菌を行いました。

また、詰所内の環境整備や、感染対策を目的としたマニュアル作成などを実施し、6月上旬より入院加療されていたご利用者様が戻られました。

全国的にコロナウイルスの感染者が減少してきている状況にありますが、職員一同更に気を引き締め日々の業務に当たっております。

当施設はクラスター終息以後、感染管理の見直しを行い、ご利用者様の生活を元に戻すことを目的に「感染対策チーム」を立ち上げました。現在も様々な検討を継続しておりますが、実施している感染対策の一部をご紹介します。

1. 職員の感染管理

- 就業前健康チェックの実施、感染教育の継続。
- 濃厚接触のリスク回避として場面に応じた防護具の装着。

密着するケアの時は、マスク、フェイスシールド、エプロン、プラスチックグローブを装着します。



2. 介護業務

- 居室別、フロア別にスタッフを配置し、フロアを往来してご利用者様のケアに当たらないようにしています。
- 食事は一テーブル1名でご利用していただき、黙食をお願いしています。
- 入浴の際は、居室単位でご案内し密を回避するようにしています。
- ご利用者様のマスク装着については、可能な限りお願いをしています。

3. 環境整備

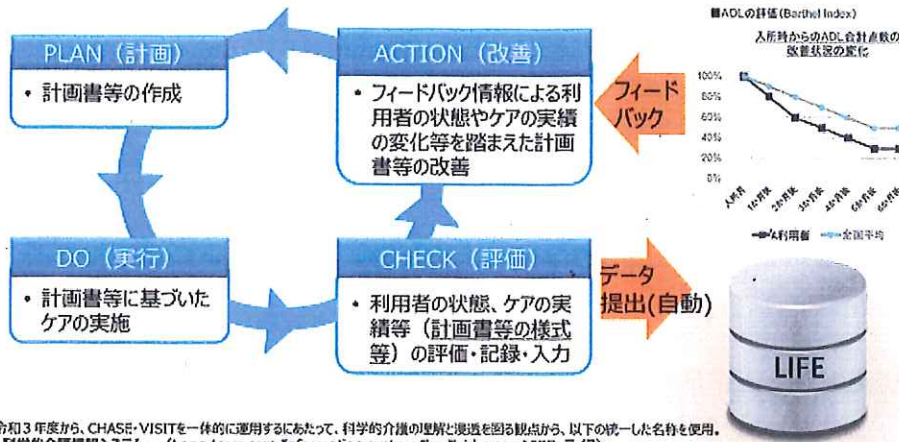
- 除菌シートでの清掃をこまめに実施し、整理整頓、清掃清潔を維持する。
- おやつ等の食品管理ルールの作成。

全居室に感染予防用品を設置しています。



ワクチン接種は、ご利用者様、職員共に2回目の実施がほぼ終了しております。

ご面会や、行事の完全再開等、まだまだ課題、問題は多いのですが、「正しく恐れる」をスローガンに、ご利用者様、ご家族様に安心頂けるよう、努力して参ります。



2025年、 2040年問題

2025年には戦後第一次ベビーブームの時に生まれた団塊の世代の方々が75歳以上になります。2025年には現在より要介護認定を受ける方がさらに増加し771万人になると予測されており、施設の定員数も121万人程度まで増加する予定となっています。全国の特養待機者は令和1年度時点で29万2千人となっており、札幌市でも令和2年度時点で1850人近くの方が待機されている状況です。

2040年には、団塊の世代ジュニアが65歳以上となり、高齢者人口がピークに達します。65歳以上の人口が約3921万人になり、人口の35.3%に達する事となります。その内、要介護認定者が998万人となり、現在から330万人も増加します。

一方、介護従事者の人口は2025年には247万人必要な所、現在の予測では215万人となっています。さらに、10年後の2035年には297万人必要ですが、予測では228万人となっており、69万人の不足が予測されています。

これらの問題に対応する

介

ため、「自立支援・重度化防止の取組の推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」「地域包括ケアシステムの推進」を推進していく事になります。

科学的根拠のある ケアを

ここでは、この内の「介護人材の確保・介護現場の革新」と「自立支援・重度化防止の取組の推進」について触れてみたいと思います。

「介護人材の確保・介護現場の革新」に向け、介護機器・ICT等を活用し、介護サービスの質・生産性の向上、介護職員の処遇改善や職場環境の改善を推進する予定です。

実際に当施設でも、今年度からICT委員会を発足しました。ICT等の機器を導入する事により、ご利用者様毎の個別的なケアを提供出来るという点や、ご利用者様と職員との時間をより多く作れるというメリットがあると考えています。ICTの導入についてはそのメリット・デメリットについて検証しながら従来の業務につ

いても見直しを行っていき

「自立支援・重度化防止の取組の推進」については、介護の質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を推進していく事となります。結果として「自立支援ケア」を行い、ご利用者様の「要介護度改善」に繋がっていきます。

そのために施設独自の評価では無く、国が管理しているデータベースに情報提供をし、膨大なデータベースから自立支援に繋がる効果的な支援内容の示唆を受け、実践していきます。当施設にも数種類の計画書が存在しますが、なぜ施設の評価だけではなく国のデータベースが必要なのかというと、自施設で行っているケアと他施設のケアを比べて分析が出来るようになり、より良いケア方法を知るきっかけにも繋がっていくからです。そのため、データベースにこれらの情報を入力を行い、フィードバックを受け実践する事で、少しでもご利用者様の自立支援に繋がっていくような取り組みをしています。

札幌生まれ札幌育ち。

敬樹園の裏にある盤溪小学校卒業。平成20年に入職し敬樹園一筋13年目突入。

昨年1月には待望の第一子となる女の子が誕生。腱鞘炎と戦いながら子育て奮闘中。



介護保険制度改定で

変わる未来

改定の大きな柱

令和3年4月1日から介護保険制度が改定となり、8月には減額制度の改定や食費基準額等の変更がありました。今後も「増え続ける高齢者」を「少なくする現役世代」が支えていく事となり、介護保険制度を持続させていくため、給付と負担の見直しが必要になっていくと思います。

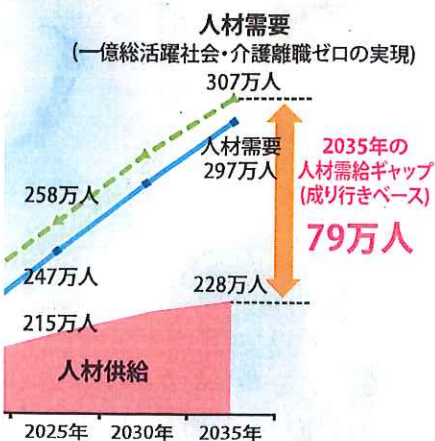
改定の中で、2025年、2040年問題を見据えた「地域包括ケアシステムの推進」「自立支援・重度化防止の取組の推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」「制度の安定性・持続可能性の確保」の必要性について強く打ち出されています。ここでは、現状を踏まえ、2025年、2040年問題とはいったいどんな事が問題とされるのかを説明します。

高齢化社会の現状

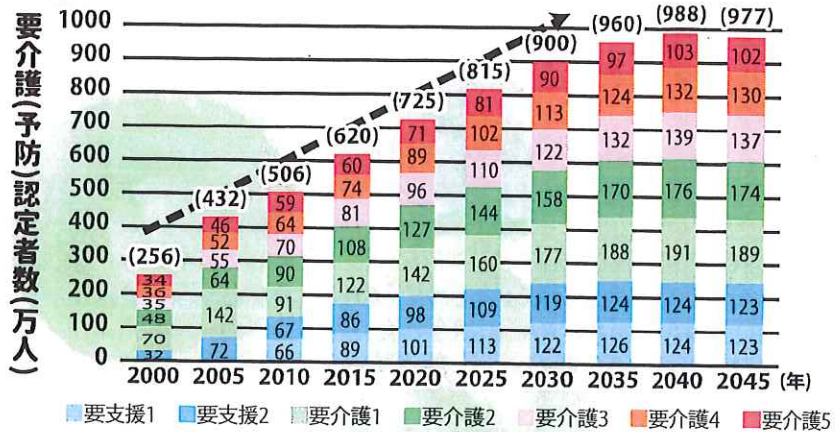
現在の状況として、2021年2月時点で総人口1億2562万人に対して65歳以上の高齢者の数は約3625万人で、人口の約29%になります。その内、要介護認定を受けている方は約667万人で、5人に1人が要介護認定を受けていることとなります。

特別養護老人施設の定員数は67万人となっており、老人保健施設、介護医療院等を含めると109万人程度の定員となります。その他の方々はグループホーム、サービス付高齢者住宅、在宅でサービスを受けながら生活されている状況です。現在も介護施設では職員不足に陥り、定員数を受けられない施設も出てきている状態です。

人材需給のギャップ (経済産業省による試算)



要介護(要支援)認定者の将来推計



※2000年度、2005年度は、要介護が1段階しかなく、要支援2には現行の要支援1相当の者も含まれる。

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成29年推計)」、総務省「人口推計(平成28年)」、厚生労働省「平成27年度介護給付費実態調査」統計表第3表 平成27年11月審査分より経済産業省作成

ま、経済産業省の推計であり、厚生労働省「介護人材にかかる需給推計(確定値)について」推計結果と異なる。

よしもとオンラインレクライブ

介護資格を持った吉本興業の芸人さんによる「よしもとお笑い介護ブ！オンライン介護レク」のキックオフイベントとして実施された、リモートコンサートを視聴しました！

第1部は、介護資格を取得した芸人さんによるオンラインレクが行われ、グーパー体操を一緒にしました！徐々に難しくなるお題に苦戦する方も…。あちこちで笑いが起き楽しい時間でした♪

第2部はオール巨人さんによるコンサート！自身のオリジナル曲から、有名な歌謡曲まで約30分間のライブで、素敵な歌声に涙する方もいらっしゃいました。



▲1300を超える全国の施設が参加されていました！



園庭散歩



お天気の良い時は少人数で園庭をお散歩しています。

お花の名前を教えていただいたり、若い頃の仕事の話や農作物を育てた経験談など、心地よい天候でお話も弾みます。

「外の空気はやっぱり良いね」「早くお出かけ出来るようになりたいね」「お花も頑張っているから私たちも頑張らないと」など、自然のパワーを頂いて、皆様良い表情で過ごされておりました。



ベランダでスイカの会

例年であれば敬樹園の園庭でお祭りを行っている時期(初夏)ではありますが、今年は新型コロナウイルスの影響もあり、少人数で数回に分けて3階のベランダで「スイカの会」を開催いたしました！

「やっぱり夏と言えばスイカだね！」「こんなに食べてもいいの？」と眺めの良い景色で新鮮な空気を感じながら、久しぶりの行事を皆様笑顔で楽しまれました。

「次はどんなことをしてくれるのかな？」と楽しみにされている声も聞かれたため、皆様のご希望を確認しながら検討していきたいと思っております！



暑快に甘グッ！

外は気持ちいいねえ！



おかわりしました！



▲市内を一望できる特等席です！



敬樹園最高齢！



9月17日

けいろうしゆくがかい

敬老祝賀会

今年の敬老の日は9月20日ですが、敬樹園ではすこし早めの17日に敬老祝賀会を行いました！

例年は大ホールに集まりお祝いのステージなど催しもあるのですが、今年は感染予防対策のため賀寿の対象となるご利用者様の元へ訪問し、記念品をお渡しさせていただきました。

今年は百寿2名、白寿2名、米寿5名、喜寿1名でした！

それぞれ担当の介護職員が選んだ記念品は、これからの季節にぴったりなフワフワのベストや、可愛いぬいぐるみ、パジャマなど大変喜んでいただけました！

お昼ごはんは、「栗お赤飯、お吸い物、天ぷら盛り合わせ、炊き合わせ、茶碗蒸し、おまんじゅう」と、いつもより豪華なお祝いメニューで皆様たくさん召し上がってくださいました！

これからもお元気でお過ごしいただけますよう、職員一同生活のお手伝いをさせていただきます。

おめでとーございます！



新
コーナー

介護の現場から

このコーナーでは、敬樹園でのご利用者様の様子、職員の取り組みなどをお伝えしていきます！

～見えない笑顔を見える笑顔に～

以前から感染症が流行する時期などは、勤務中にマスクを着用していましたが、国内でコロナウイルスが発生してからは、マスクの着用が日常となりました。

感染者が増加し感染予防が強化されてからは、ご利用者様のケアにあたる際には、さらにゴーグル、またはフェイスシールドの着用など、顔の半分以上が隠れることにより、表情が見えにくくなってしまいました。

認知症の方は、相手の表情が見えないことで不安を感じやすいといわれています。日々の関わりでは、マスクで見えにくくなってしまった表情が伝わるように、表情を大きく作ったり、ジェスチャーを取り入れることを心掛けながら、お声掛けするよう工夫しています。

敬樹園の
生活リハビリ

「生活リハビリ」では、食べる・寝る・入浴する・トイレに行く等、日々行う諸々の行為動作を、できる限り自らの意思と自分の力でできるようにすることが、最終ゴールです。

この春、新型コロナウイルスの感染拡大(当施設のクラスター)によって、入院や集団活動の一時中止など、ご利用者様には生活環境が大きく変わってしまい、クラスター終息後も元の生活に戻るまでには暫くの時間が掛かることとなりました。

そのような方には、本来行っている集団体操や個別指導、車いすやベッド上での姿勢保持調整、車いす及び福祉用具の改良など「包括的なリハビリテーションサービス」と共に、個人個人の状態に合わせて、一時的ではありますが身体機能の回復訓練を提供しています。

ベッド上あるいは車いすでの姿勢もそのままですと、皮膚の赤みなど新たな病状が生じてしまいます。長時間同じ姿勢を保っていたら、体重の掛かっている箇所は痛みが生じ、この筋の凝りが連続していると関節拘縮になっていきます。このような障害を予防するためにも、生活リハビリは必要なのです。

見守り介護ロボット
「aams(アームス)」

この度、見守り介護ロボット「aams(アームス)」を2台導入しました。

本体センサーをマットレスの下に敷くことで、ご利用者様の心拍・呼吸・体動・離床をリアルタイムでスマートフォンに受信し確認できます。また、眠りの深さや、各種見守り履歴を30日間分見ることができ、ケアプランの作成にも役立てる事ができます。

異変発生時には、アラート音と画面表示により離れた場所でも瞬時に気付くことができ、素早い対応を行うことが出来ます。

まだ導入したばかりで利用実績は少ないですが、今後どのご利用者様に利用できるか検討し活用していきます。

編集
後記

4月号、7月号をお休みさせていただき、久しぶりの発行となりました。施設内は引き続き感染予防をしながらではありますが、窓越しの面会や行事が再開され、少しずつ元の生活に戻りつつあります。久しぶりにご家族様に会えてニコニコ顔を見ると、こちらも嬉しい気持ちになります♪直接触れ合える日が早く来ることを願うばかりです・・・☆(広報担当 丸山)

※広報誌への写真掲載に関しましては、承諾を得た上で掲載させていただいております。